

西城かわらばん

高田西城病院

院内広報

創刊号 2000年元旦

医療法人高田西城会高田西城病院
発行者 院長 川室 優
〒943-0834 新潟県上越市西城町2-8-30
TEL (0255)23-2139 FAX (0255)26-0102



人と人の気持ちが通い合う、
医療・福祉サービスをめざして
—2000年に新しい息吹きを—

2000年の初春を迎え、心からお慶び申し上げます。昨年、当院は、リニューアル後一年目の、いわばスタートの年でした。21世紀に向け、機能分化した病棟づくりと外来の充実化を目標に、様々な事業が開始されました。従来の精神科病院は、精神障害者の「生活の場」のような側面が際立っておりましたが、増改築後は、あくまでも職員一同が「治療の場」を十分意識し、患者・家族に対して充実した日々の精神医療・福祉サービスを提供して頂きたいと思えます。

本年、当院は創立80周年を迎えますが、人間関係が希薄化する現代社会においては、特に、人と人との気持ちが通い合うことが大変重要であり、それを何よりも期待している心病む方々が、年々増加しております。それだけに今後、私自身、良質な精神科医療・福祉従事者が生まれ、また全職員が当院で働くことに常に誇りをもてるような、病院づくりをしていきたいと願っております。そのためにも、職員が自分自身をよく理解し、互いに助け合い、尊重し合って仕事に従事して頂きたいと思えます。

今、日本は経済が低迷し、その影響が人間の心の奥底にまで及び、さまざまな弊害をもたらしています。そうした「心病む時代」に私共が地域の皆さんの心安らかな生活のために援助し、サポート出来ることは、とても幸せな使命だといえるのではないのでしょうか。

2000年の新しい息吹きの中で、共に仕事に励む職員の皆様と、そのご家族のご清福を心より祈念いたします。

2000年 元旦

高田西城病院
理事長・院長 川室 優

2000年の抱負

2000年、年月も病院もリニューアルされました。そこで、34名の職員の皆さんから働いていく上での抱負を語ってもらいました。変動の激しい世の中、その中でどう生きぬくか、課題は山積みしておりますが……。



事務部長
小高百合子

職員一人ひとりが心を一つにして、より充実した医療サービスを提供する為の環境を整えていく中で、ムリ、ムダ、ムラを省く「三無主義」を提唱いたします。



精神療養病棟
山岸 利成

外来中心の精神科医療に向け、社会参加の前段階である当病棟の持つ治療的役割を担えるよう努力したい。



訪問看護ステーション
中村三枝子

介護保険の導入にあたり看護の質、サービスの向上が求められる中、他医療機関、地域との連携をさらに図っていききたい。



看護部長
水嶋 純子

「和をもって尊しと為す」各自が健康で責任を持ち、組織の目標に向かい臨んでいく姿勢が大切であると考えます。



薬剤部
西島 和子

チーム医療の重要性を考え、薬剤情報提供の充実を図り、より質の高い医療サービスを目指したいと思っております。



急性期病棟
鷺塚恵美子

急性期病棟としての機能を生かした看護を患者さんに提供できるよう日々努力していきたいと思っております。



精神福祉保健相談室
森橋 恵子

他の職種とチームを組んでいく中で、ソーシャルワーカーとしての専門性を高めていききたいと思っております。



亜急性期病棟2階
荒井 康雄

暗いイメージの強かった精神科医療を、一変できるような明るく、楽しく、さわやかな職場にしていきたい。



亜急性期病棟3階
瓶子 浩美

新しい年を迎え、ようやく仕事にも慣れてきました。これから、初心を忘れず一生懸命頑張ろうと思っております。



精神療養病棟
竹田 圭子

機能分科された新病棟に始めは戸惑いもありましたが現在の精神科医療に遅れないよう頑張りたいと思っております。



外来
榎原シズ子

私が一番大切にしている事は、人の触れ合いです。これからも若い人達のパワーをいたさ明らかに楽しく過ごしてゆきたい。



老人性痴呆疾患治療病棟
池田 八重

人との和を大切にしたいと学んだ姿勢をいつまでも持ち続けていききたいと思っております。



臨床検査室
小菅アサ子

検査室だけでなく他のセクションとの協力、連携を念頭に置き、健康に気をつけて業務に励みたいと思っております。



老人性痴呆疾患治療病棟
増田喜美栄

二十世紀から二十一世紀に向けての病院は、どうあるべきか信頼される病院づくりを目指して、自助努力に、つとめたいと思っております。



栄養課
川川 利一

心の豊さとは何かをテーマに、今何を成すべきか考える力を、心の力を、一人一人を大切に、職場のレベル向上を。



中央療養病棟
杉澤 雅博

平成十一年に男児が生まれ、私生活でも仕事に於いても張り合える毎日を送りたいと思っております。



作業療法室
吉田 末里

リニューアルされた病院とともに、私自身も成長できるように頑張りたいと思っております。



老人性痴呆疾患治療病棟
石田 義敬

私の勤務する病棟は閉鎖病棟なので、患者さんが快適に、そして早く社会復帰できるように努めていきたいと思っております。



栄養課
大島美千代

社会人として実際に現場で働いてみると大変ですが、学校で学んだ専門教科を生かせる様な仕事をしたいです。



精神療養病棟
山崎ゆかり

難しさややりがいを感じながらSSTに取り組んでいます。更に経験を重ね、技術向上を目指していきたいです。



外来
杉山みゆき

二十年だからと言って、特別な抱負は、ありません。初心を忘れず毎日を送りたいと思っております。



中央療養病棟
大友百合子

何が起ころうか変わると、人々が弱く淋しがり屋さん。心豊かに日々を大切に生きたい。と自分に語りかけている今日此頃です。



亜急性期病棟3階
江村 真澄

私の勤務する病棟は閉鎖病棟なので、患者さんが快適に、そして早く社会復帰できるように努めていきたいと思っております。



栄養課
大島美千代

私の勤務する病棟は閉鎖病棟なので、患者さんが快適に、そして早く社会復帰できるように努めていきたいと思っております。



精神療養病棟
山崎ゆかり

難しさややりがいを感じながらSSTに取り組んでいます。更に経験を重ね、技術向上を目指していきたいです。



臨床心理室
嶋岡 美鈴

心理職として、他職種の方々と密な連携を取りながら、よりきめ細やかなサービスができるよう頑張ります。



老人性痴呆疾患治療病棟
前田 寿子

老人看護という特別な環境の中で患者さんにとって何が一番大切か考え、より良き看護を提供していきたい。



医事課
沖田 芳子

テンダースマイル・迅速な対応、患者様への細やかなサービスを中心掛け、今私に出来る事を、Do, do my best!



老人性痴呆疾患治療病棟
星野ナツ子

二十一世紀を前に足早になった高齢化社会の到来に、チームワークで思いやりの温かさをプラスした看護の心で臨みたい。



中央療養病棟
高野 和美

チームワークを大切に、患者さんに質の高いケアを提供できるように努力してゆきたいです。



急性期病棟
大野由喜江

採用されて十ヶ月。これまでの反省を生かし今年度は事故健康管理に十分注意し、また患者さんとの関わりを多くしていきたい。



老人性痴呆疾患治療病棟
大島 百恵

新しく、きれいな病棟の中において、たくさんのお患者さんとれ合うことで自分の看護観を見つけていきたい。



栄養課
塚田多津子

常に明るく楽しく前向きに、色々な事を学びながら、これからも、今以上に頑張りたいと思っております。



外来
秋山 和子

これからも、チーム医療の重要性、大切さを、認識し、一員として、将来へ向かって、がんばって、行きたい、思っております。



医事課
吉田 綾子

患者さんが安心して治療できるよういろいろな面でサポートできるように心がけていこうと思っております。

シリーズ 1

セクション紹介

精神科作業療法室より

作業療法士 足立 一



当病院におけるリハビリテーションは、病棟での生活指導やレクリエーション活動、職業訓練から始まり、グループホームや生活訓練施設、在宅などへの社会復帰に向けたSSTグループまで、以前から活発に行われていました。そんな中、当病院の機能別病棟に伴い、リハビリテーションもいっそうの質の向上を目指し、精神科作業療法室が、1998年（平成10年）5月に認可を受け、相談リハビリテーション部としてスタートしました。

開設当初は、今までのリハビリテーションの歴史とスタッフの理想との違いからの戸惑いや病棟増改築工事中の問題から、当時3人のスタッフは、試行錯誤の連続でした。しかし、「患者さんのニーズ」と「患者さんのためになること」を何度も考え直し、「チーム医療」を合い言葉に取り組み、他のセクションの御協力のおかげで、なんとか一年半がたちました。

現在は、スタッフも4人と増員され、業務も精神科作業療法から老人作業療法（老人性痴呆疾患治療・療

養病棟、老人デイケア）や地域作業療法（老人保健施設・高田の郷）へと拡大し、我々の活躍の場も増えてきました。

病棟活動やSSTの関連性を明確にし、精神科作業療法を「いかに機能的・治療的に行っていくか？」など、大きな課題はまだありますが、今後も作業療法室のスタッフが勉学に励み、患者さんを尊重しつつ、「チーム医療」を合い言葉に頑張っていきたいと思えます。



精神科作業療法の作業風景

実習生の声

観察の重要性と状況対応の難しさ

— 精神科作業療法の実習を経ての感想 —

藤岡 美穂



精神科作業療法の実習を経て、短期間ではありましたが、その中で体験し、学ぶことは多く、その後の長期実習へつなげることができたのではないかと思います。初めての实習ということもあり緊張しましたが、院内やスタッフ間の雰囲気明るく、すぐに馴染むことができましたように感じます。

作業療法場面においては、作業活動やレクリエー

ション活動を通じ、集団の中での患者さんとの接し方や関係の取り方について学ぶことができました。また、作業活動中の患者さんの観察の重要性や、その場の状況に対応した行動や言動を取るものの難しさを感じることができました。

最後に病院の改築など、お忙しい中、実習を受け入れて頂き、また親切に指導して頂きありがとうございました。

教 養 講 座

介護保険＝当院ではこうなる

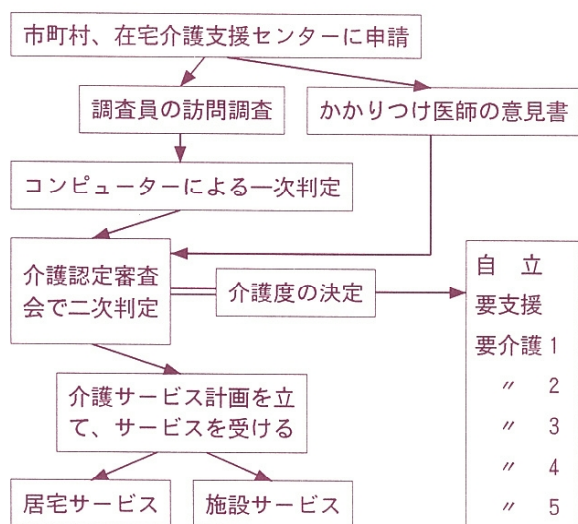
2000年4月スタートの公的介護保険がいよいよ目前に迫ってきました。新聞、テレビに出ているように、いまだに保険料の事、介護認定やサービスの地域格差の事などの問題が残っています。そんな中、高田西城病院ではどう対応していくことになるか、制度の概要を含めてご説明いたします。

[介護保険のあらまし]

○被保険者

- 65歳以上で要支援・要介護の認定を受けた方
- 40歳～65歳未満で特定疾患が原因で要支援・要介護の認定を受けた方

○申請から利用までの流れ



○サービス受給

介護度に応じた費用の中でサービスを選び、利用していきます。(利用者は1割負担)

〈要介護度別の平均的費用〉

居宅サービス

区分	平均的な費用
要支援	6.4万円
要介護1	17.0万円
要介護2	20.1万円
要介護3	27.4万円
要介護4	31.3万円
要介護5	36.8万円

施設サービス

区分	平均的な費用
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	32.5万円
介護老人保健施設 (老人保健施設)	35.4万円
介護療養型医療施設 (療養型病床群)	43.1万円

[居宅サービスの種類]

- 家庭を訪問するサービス
訪問介護 (ホームヘルパー)、訪問看護
訪問リハビリテーション、訪問入浴
- 日帰りサービス

通所介護 (デイサービス)

通所リハビリテーション (デイケア)

• 短期入所サービス

短期入所生活介護 (特養のショートステイ)

短期入所療養介護 (老健、病院の ")

• 福祉用具の貸付・購入費支給、住宅改良費の支給

• 痴呆対応型共同生活介護 (グループホーム)

• 特定施設入所者生活介護 (有料老人ホーム)

[施設サービスの種類]

• 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)

• 介護老人保健施設 (老人保健施設)

• 介護療養型医療施設 (療養型病床群、老人性痴呆疾患療養病棟、介護力強化病院)

[高田西城病院の動き]

公的介護保険という国の動きに対応し、また地域のニーズに応じていくために当院も導入していくこととなります。つまり、

1. 老人性痴呆疾患療養病棟の21床を介護保険の対象とする。

2. 居宅サービスの、訪問看護 (老人デイケアと短期入所療養介護は検討中) が適用となる。

予定です。

いままで病院イコール医療保険だったわけですが、今後は医療保険と介護保険の混在になっていきます。運営管理の明確化を図るとともに、他機関との連携を密にしなが、いい介護サービスを提供し、選ばれるサービスになっていく必要があると思います。そしてそのために、職員が一致協力して乗り切っていかなければと思います。

勝俣・壘 記

編集後記

コンピュータ2000年問題も何とかクリアできたようで、ほっと一息ついている今日この頃です。一方、いまだに介護保険については不透明な部分が多く、今後の動向を引き続き見守っていきたいと思います。

皆様のご協力のもとに、記念すべき広報誌第1号を発行することができました。これからも「みんなの広報誌」を目指して頑張りますので、よろしく願いいたします。